

水産業振興への基本課題

社団法人 大日本水産会
会長 中須 勇雄

(現状)

- 日本は水産資源に関しては、世界の大国の1つ。
日本の年間漁獲量 553万t (世界第5位)
〃 水産物消費量 32kg/人 (世界平均9kg/人)
- 食生活において、水産物は、魚に多く含まれるn-3系脂肪酸(DHA、EPAなど)の機能等から、心筋梗塞など心血管系疾患の予防、ガンによる死亡率が低いなどのデータで注目されている。
- 近年、残念ながら資源水準が低下。水産研究センターの評価によれば、近海の主要資源は「高位」15系群、「中位」32系群、「低位」43系群。この回復が基本的に大きな課題。
- 更に、近年における国内漁獲量の低迷や価格の低下により、生産段階はもとより、流通や加工段階も産業として弱体化しつつある。

(課題)

- 資源の回復を促進するため、漁場生産力の強化を図る
ー漁礁の設置、藻場・干潟の整備、山、川、海とつながる自然循環機能の回復、海岸、海中でのゴミの除去、処理等ー
- 資源水準が大幅に低下している魚種について、3~5年程度の期間大幅な休漁等を可能とする支援の実施。
- 漁業への就業促進、異業種連携、水産物輸出の拡大等、川上から川下に至る(生産から流通・加工・消費へ至る)新しいビジネスモデルの構築の支援。